

News

ニュース

都市文化研究センターの活動

山野 正彦

今年度の重点目標

2005年度から研究プログラムの見直しによる新たな事業展開を図ることになった。研究推進のための重点目標として、1) アーカイブス・プロジェクトの発足とデータベースの整備、2) 都市文化研究の課題と方法を確立するための国際シンポジウムの開催を掲げた。また従来から着実に進められている研究会活動も新たなチーム体制で再スタートした。いずれも所期の計画に従って順調に進行している。

アーカイブス・プロジェクトでは都市のこれまでの文化的蓄積をデータベース化することに取り組んでいる。まず、明治時代の大阪とその周辺を撮影した貴重な写真史料である、上田貞治郎写真コレクションのデータベース化をはかり、7月から公開した。続いて次年度までには、大阪の都市文献・史料、サウンドスケープ・アーカイブ、グローバルベースなどのサイトを立ち上げる計画であり、データ収集のための調査研究が進められている。文化資源の活用は今後の都市文化施策にとっても大きな課題である。COEホームページもより充実した内容に更新された。今年度の大学からのCOE支援のための予算の大部分はデータベースの整備のための支出に充当する予定である。

国際シンポジウムは2006年3月18・19日の開催をめざして、準備会議を重ねている。シンポジウム全体のタイトルは、Towards the Construction of Urban Cultural Theoriesとして、都市文化理論の構築に向けて、アジア・東南アジア、それに大阪地域を念頭に置いた内容と企画を検討している、メインスピーカーには、歴史学者のアンソニー・リード氏（シンガポール大学アジア研究所所長）を招聘する予定である。

研究体制について

大阪市立大学は2006年4月から独立行政法人化する予定である。これと時を同じくして大学では、都市研究を学内外で展開するためのキーステーションとなるべき新たな組織として、「都市プラザ」を開設することになった。本都市文化研究センターでも、COE事業推進担当者教員2名の都市プラザ移籍と連動して、新たに作られる組織との連携が課題となってきている。

海外サブセンターを拠点とした調査研究、研究フォーラムも引き続き円滑に行われている。バンコク、ジョクジャカルタでの国際アカデミックフォーラムも例年通り開催された。英文のフォーラム報告書もこれまでの年度と同様に刊行できる予定である。

2005年度事業推進協力者教員は年度初めに32名が選任された。また10月から1名追加された。

センター会議の記録

- 第40回 9月14日（水）
- 第41回 10月12日（水）
- 第42回 11月9日（水）
- 第43回 12月7日（水）

大阪プロジェクト・重点研究の活動

塚田 孝

本誌第6号の活動報告に記したように、COE大阪プロジェクトと重点研究「都市文化創造のための比較史的研究」は、2005年4月以降、共同で事業を行ない、その運営のため、大阪・重点運営会議をもってきた。以下、第6号掲載分に続く2005年8月以降の活動について記す。

なお、大阪プロジェクトに含まれる事業は、「比較都市文化史研究の推進」・「歴史遺産と都市文化創造」・「大坂関係史資料の基盤整備」・「大阪(大坂)関係中世文書の写真版による収集」・「上方文化講座(都市と演劇)」・「多文化共生に関する都市実態調査(国際比較)」などである。また、文学研究科の重点研究は、①大阪の都市史研究それ自体を推進すること、②大阪を念頭に置きつつ、世界的規模での比較史を推進することを課題としている。

研究会活動

2005年11月までに行なわれた研究会は、以下の通りである。

① 第2回「上方文化講座」〈国性爺合戦〉

2005年8月31日（水）～9月2日（金）
 学術情報総合センター大会議室
 講師：竹本津駒大夫(太夫), 鶴澤清介(三味線),
 桐竹勘十郎(人形遣い), 阪口弘之(本学名誉教授)他

講義内容

- 8月31日（水）
- ・近松時代物の世界
 - ・『国性爺合戦』（楼門の段）講読I
 - ・京劇と荒事
 - ・虎に見る日本人の中国意識
- 9月1日(木)
- ・『国性爺合戦』（楼門の段）講読II
 - ・『国性爺合戦』（楼門の段）講読III
 - ・『国性爺合戦』一語りと人形演出(竹本津駒大夫・鶴澤清介・桐竹勘十郎)
- 9月2日(金)
- ・『国性爺合戦』一典抛とその後の拵がり
 - ・近世日本の国家意識
 - ・桐竹勘十郎師に聞く一実演をまじえて(勘十郎)
 - ・時代物の精髓—太夫・三味線・人形一体の舞台再現(津駒大夫・清介・勘十郎)

② 比較都市文化史研究会

2005年10月15日（土）14:00～17:00
 第2会議室（法学部棟6F）
 報告：脇村孝平（大阪市立大学大学院経済学研究科教授）「論評：『東アジア近世都市における社会的結合』」
 山崎覚士（COE特別研究員）「中国史の立場から」
 塚田 孝（大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者）「編集にかかわって—日本近世都市史の流れのなかで—」

③ シンポジウム「近松・藤十郎・大坂の歌舞伎」

2005年10月30日（日）13:00～16:00
 大阪歴史博物館 4階 講堂
 赤間亮（立命館大学文学部教授）
 アンドリュー・ガーストル（ロンドン大学SOAS教授）
 西島孜哉（武庫川女子大学文学部教授）
 林久美子（京都橘大学文学部教授）
 脇田修（大阪歴史博物館長）
 （司会）阪口弘之（大阪市立大学名誉教授）

④ 「歴史遺産と都市文化創造」シンポジウム「都市城壁(惣構)を町づくりにいかす」

2005年11月23日（水）10:00～17:00
 大阪市立難波市民学習センター
 報告：仁木 宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進担当者）趣旨説明
 内堀信雄（岐阜市教育委員会）「総構活用は未来への橋渡し—岐阜市の過去・現在・未来—」
 増田達夫（金沢工業大学建築系教授）「城下町金沢の惣構堀と現況—GISによる古地図・現地調査の比較分析—」
 中村武生（佛教大学文学部非常勤講師）「京都惣構『御土居堀』の啓発とまちづくり計画—御土居堀研究会の活動—」
 大黒俊二（大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進協力者）「イタリア・市壁との共生—ルッカ, チッタデッラ, ポローニャの事例から—」
 コメント：北川央（大阪城天守閣）
 堤道明（大阪市経営企画室長）

⑤ 比較都市文化史研究会

2005年12月4日(日) 13:00～17:00
 第2会議室（法学部棟6F）
 報告：高久智広(神戸市立博物館)「旗本論からみた大坂町奉行」
 熊谷光子（近世史研究者）「大坂町奉行所における明和3年の仕法改正について—明和3年金銀出入取捌き仕法と明和7年一領一支配切仕法—」
 以上の研究会のうち、③、④については今年度中に、成果を報告書として取りまとめる予定である。また、現在、昨年度実施のシンポジウム「水の都市文化」（2005年3月19日）、および今年度実施済みのシンポジウム「大阪および日本の都市の歴史的発展」（2005年6月11日）の成果についても、報告書を作成中である。

大阪・重点運営会議

以上のような研究活動を実施するために行なわれた大阪・重点運営会議は、以下の通りである。

第5回 2005年9月16日（金）10:00～11:00
 第6回 2005年10月7日（金）10:00～11:00
 第7回 2005年11月4日（金）10:00～11:00
 第8回 2005年12月2日（金）10:00～11:00

中国プロジェクトの活動

水内 俊雄

上海、北京サブセンターを中心に、活発に活動が継続されている。

まず大阪サイドでは、中国プロジェクト・ミニワークショップ“Joint Workshop on Urbanity, Urban Change and Governance in Shanghai, Hong Kong and Osaka”を、2005年8月23日、24日に、大阪市立大学の文学部棟を利用して開催した。中国側からは、上海サブセンター＝現代都市社会研究中心の陳映芳法政学院教授、寧越敏資源環境科学院教授、達良俊資源環境科学院教授、文軍法政学院助教授、林拓資源環境科学院助教授、そして新たに加わった香港浸會大学地理学科のTANG Wing-Shing教授、WONG Kit Pingリサーチアソシエイトに、院生のMAN Pui-Yee、院生のCHAN Kim-Ching、そして日本側からは、水内俊雄（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、西部均（COE特別研究員）、中岡深雪、本岡拓哉、山口晋各氏（以上COE研究員）が発表した。

NING Yuemin: Current Trends in Chinese Urban Studies

WEN Jun: Migrant Laborers in Shanghai since the 1980's

CHEN Ying Fan: “Penghu-Qu (The Shanty Area in Shanghai)” ; Life Histories in Their Memory

LIN Tuo: The Reorganization and Readjustment of Living Space of the Lower Class People in the Process of Urban Renewal in Shanghai

DA Liangjun: The Environmental Transition and the Present Condition of Urban Ecology in Shanghai

NAKAOKA Miyuki: The Urban Development in Global City Shanghai: Focusing on the Rising Housing Price as a Social Problem

NISHIBE Hitoshi: The Review of Japanese Documents about Modern Shanghai before 1945

MIZUUCHI Toshio: The Socio-political Context of Japanese Housing Policies for Slum and Squatter Dwellers after 1945

MOTOOKA Takuya: Formation and clearance

of “Barrack” town in Postwar Japanese city

TANG Wing-Shing: Power, Space and (Re) Development: A Research Agenda

WONG Kit Ping Tammy: The Production of Prescriptive Space in Urban Re-development: The case of Hong Kong

MAN Pui-Yee Iris: The Government of Public Streets: The case of Hong Kong

CHAN Kim-Ching: Time-space analysis of the use of a pedestrianised street in Hong Kong

YAMAGUCHI Susumu: Controlling the public space: The case of “Heaven Artists” in Tokyo and street dancers in OCAT, Osaka

なおこのミニワークショップの直前に、陳映芳、寧越敏の両教授は、水内俊雄が共同主催者でもある第8回のアジア都市化会議（神戸市、流通科学大学）にも出席し、発表を行っている。

NING Yuemin: An approach to study Shanghai's floating population in the 1990s

Chen Ying Fang: City reconstruction in the socialist state: the case of Shanghai in 1949-1979

このミニワークショップは、大阪、上海、香港の新たな交流のきっかけとなり、この後、2005年11月には、陳映芳氏が香港を訪問し、TANG Wing-Shing氏と現地調査を行った。そして今までの研究成果として、大阪側の『1949年以前の上海の空間と社会』を、中国語版で編集・出版の準備を進めている。

人文学院との共同研究については、2005年9月に、2004年10月28、29日の両日、大阪市立大学文化交流センターにて開催した第2回COE・華東師範大学人文学院共同研究報告会の成果を高瑞泉・山口久和共編『城市知識分子の二重世界——中国現代性的歴史視域』として上海古籍出版社より刊行した。

また2005年10月28日（上海）、29、30日（無錫）の3日間で、第3回COE・華東師範大学人文学院共同研究報告会を「中国的現代性与城市知識分子」の主題のもとに開催。参加者は、COE側は山口久和（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、中生勝美（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者）、王標（COE特別研究員）、鈴木

康予 (COE研究員), 人文学院側は高瑞泉 (人文学院院长), 劉仲宇 (宗教学研究所教授), 朱曉虹 (杭州師範大学助教授), 付長珍 (華東師範大学助教授) であった。

今回の共同研究の成果は, これまでの『中国的現代性と城市知識分子』(2004年), 『城市知識分子的二重世界』(2005年) と同様に高瑞泉教授と山口久和教授の共同編集を経て, 2006年度に上海古籍出版社より刊行をすることが決まっている。

教育科学院との研究については, 2005年7月に継続して, 日本, 中国双方にて研究会を持ち, 9月～10月に日中両国において実施予定の「都市における学校改革とカリキュラム開発に関する質問紙調査」の原案づくりを行った。また7月22日～24日に華東師範大学にて研究会を開催し, 日本側からは, 添田晴雄 (大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進協力者), 鄭楊 (COE特別研究員), 華東師範大学側から杜成憲教授, 黄向陽副教授, 黄忠敬副教授, 王建軍副教授が出席した。ここでは両国における調査票のうち共通質問項目について検討を行った。

その後, 調査票について日中間でメール等を通じて調整を行い, 並行して日中双方で研究会をもち, 調査票を完成させた。日本では, 大阪市, 東京都, 尼崎市, 岡山市, 仙台市, 帯広市の小・中学校において, 中国では, 上海市の小・中学校において調査を実施した。

2005年11月22日～24日には, それぞれの素集計 (速報) を持ち寄り, 華東師範大学で研究会を持った。日本側からは, 添田晴雄, 佐藤真 (兵庫教育大学学校教育学部助教授), 鄭楊, 華東師範大学側から杜成憲教授, 黄向陽副教授, 王建軍副教授が出席した。研究会では, 日中の素集計について意見交換を行い, 報告書作成に向けての分析方法と報告書のシラバス等について検討した。

東南アジア・プロジェクトの活動

中川 眞

本プロジェクトの各サブセンターでの活動については, それぞれのサブセンター報告に譲り, 本稿では大阪市立大学を中心とする日本における活動について報告する。

バンコク, ジョクジャカルタそれぞれのサブセンターの地より, 2名の招聘研究者 (客員教授) が来日した。ひとりには, ドゥイ・マリアント教授 (インドネシア芸術大学大学院研究科長, 受入教員は中川眞教授) で, 10月15日～24日, 「関西における現代芸術の現状」というテーマで精力的な調査を, 国立京都近代美術館, 国立国際美術館, 築港倉庫「大阪アーツアポリア」, 伊丹市立美術館, 甲賀市立碧水ホール, 国立民族学博物館などで行った。もうひとりには, クックデー・カンタマラ助教授 (チュラロンコン大学芸術学部, 受入教員は山野正彦教授) で, 10月17日～27日, 「関西における美術遺産とツーリズム」というテーマで, 大阪歴史博物館, 醍醐寺, 築港倉庫「大阪アーツアポリア」, 甲賀市立碧水ホール, 大池寺などで調査を行った。

研究発表会は2回開催され, ひとつは, 2005年10月19日, 大阪市立大学文化交流センターにて, 中川眞教授の司会で行われた。発表者, タイトルは以下の通り。

1. 野村幸弘 (岐阜大学教育学部助教授) 『ジョクジャカルタの路上風景』上映
2. ドゥイ・マリアント (インドネシア芸術大学大学院芸術研究科科長・教授 “Environmental situation of contemporary arts in Yogyakarta”

野村幸弘氏は2005年5月にCOEの研究協力者として中川眞教授とともにインドネシアのジョクジャカルタにて, 路上景観について調査, そのドキュメンテーションの上映が本研究会で行われた。招聘研究員のマリアント氏は, 2005年のヴェネチア・ビエンナーレのインドネシア館キュレーターであり, ジョクジャカルタを中心とする現代アート の状況について語った。

もうひとつの研究発表会は, 2005年10月24日, 文学部355室にて, 招聘研究員のカンタマラ氏を招いて, 山野正彦教授の司会で行われた。発表者, タイトルは以下の通り。

発表者: クックデー・カンタマラ (チュラロンコン大学) “The challenge of residence relocation and administrative needs

for Ayudthaya City to become tourism centre of ancient history and civilization”

カントマラ氏は本発表の舞台であるアユタヤ出身であり、地元の人間ならではの詳細な情報を駆使して、文化遺産としてのアユタヤの成立について述べた。

また、東南アジア・プロジェクトには「共生を軸とした創造都市」というテーマもあり、それと関連して、夏から秋にかけて中川眞教授が、奈良市の福祉施設「たんぼぼの家」とガムラン演奏団体「マルガサリ」の協力を得て、障害のある人とガムランのための音楽・ダンス作品『さあトーマス』の制作と公演を行った。

この作品は、8月1日にIMPホール（大阪市）、8月6日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）、11月23日に石井町中央公民館（徳島県）にて上演された。

アーカイブス・プロジェクトの活動

井上 徹

前号所載の2005年7月以降におけるアーカイブス・プロジェクトの活動について報告する。

1 事業計画推進会議

本プロジェクトは、事業計画を推進するために、下記の会議を開催した。

第4回会議

2005年8月31日（水） 16:00～17:30

文学部棟2階サブセンター

(1) データベース（DB）構築について

1) 既存DB一覧

昨年度末までにCOEのHPにアップした下記のDBを確認した。

「上田貞治郎写真コレクション」（担当：水内俊雄。以下同じ）

「中国都市史文献データベース」（井上徹）

「都市大阪に関する歴史学分野文献目録」（仁木宏）

「GIS Map Database」（水内俊雄）

「上海・サブセンターデータベース」（水内俊雄）

2) 平成17年度DB予定一覧（既存DBの継続事業をのぞく）

COE事業計画より、下記のDBをピックアップし、作業の推進を確認した。

「グローバルベース」（水内俊雄）：大阪市の中心部の絵図、大正中期の1万分の1、昭和17年の空中写真、現在の空中写真を組み込む。ただし、本格始動は2005年度後半。

「サウンドスケープ」（中川眞）：環境音ならびに関連資料のデータベース。ただし、始動は2005年度後半。大阪、ジョグジャカルタを対象とする。また、この事業はグローバルベースとリンクさせる。

*サーバー2台+関連ソフトを、2004年度末予算で購入済み。

「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベース」（石田佐恵子）：2005年9月に始動の予定。

「大阪都市文庫」（塚田孝、仁木宏）：コンテンツについては、今後、大阪プロジェクトに検討を依頼するものとする。

「釜ヶ崎資料データベース」（水内俊雄）

3) 設備について

DB用サーバー3台（それぞれグローバルベース、サウンドスケープ、「上田貞治郎写真コレクション」を導入するに際して購入）。これらのサーバーは、今後構築される各種DBでも使用可能。

本年度の構築に際しては、検索ソフト、文献DBソフトなどが必要とされる。また、情報管理の問題があるので、ファイヤーウォールなどの導入を検討（担当は森洋久）。

4) DBの共通仕様

共通仕様として、下記の4点を再確認した。

- ① 多言語（日本語、英語、中国語）：文字コードとして、UNICODE（UTF8）を採用。
- ② 複数者による入力（随時、情報を追加・修正）。
- ③ 横断検索：個別DBを連結して検索可能にする。
- ④ 情報管理の問題：著作権、所有権、アクセス権。

第5回会議

2005年10月12日（水） 12:00～12:40

文学部棟2階サブセンター

本会議では、10月11日に開いたミーティングの結果をもとに、データベースの構築について報告と議論が行われた。

(1) データベースの構築について

森洋久の提案に基づき、本年度におけるDB構築の作業は下記のように予定することとした。

- ① アーカイブスでは、Linux, Apacheが動いているマシンを用意する。
- ② 公開するデータベースのコンテンツは上記環境で閲覧可能なコンテンツとして完成している状態で提供してもらう。
- ③ 上記環境で動かないコンテンツは各プロジェクトで全システムまで用意してもらう。
- ④ アーカイブスは②によるコンテンツの登録、および③によるコンテンツへのホームページからのリンクを張る作業を行う。
- ⑤ アーカイブスが準備する検索はNAMAZUあたりで全文検索できる程度にとどめておく。

(2) 今後の研究活動

アーカイブス・プロジェクトの今後の方向性を見定めるために、研究会を企画することになった。立案は森洋久に依頼した。また、適宜、外部から報告者を招聘する必要があるが、関連の経費については、当初予算から支出できる旨が確認された。

2 国際シンポジウム企画

本COEセンター会議は、COE全体の事業として、国際シンポジウムを2006年3月に開催することを決定した。アーカイブス・プロジェクトはこのシンポジウムの開催について主な役割を果たすことになっており、企画委員会を設けて開催の準備に入った。委員会のメンバーは、大黒俊二、石田佐恵子、井上徹であり、またオブザーバとして、山野正彦が加わるようになった。

企画委員会は計5回開催された（2005年7月28日、8月10日、8月23日、10月5日、10月26日）。これらの会議において審議された結果は次の通りである。

開催期日：2006年3月18日・19日

場 所：共通教育棟810号室

共通テーマ

都市文化理論の構築に向けて

Towards the Construction of Urban Cultural Theories

[プログラム]

1) 3月18日 基調講演

アジア諸都市における多元性とコスモポリタンな性格

The plural and cosmopolitan culture in Asian cities

報告者：アンソニー・リード（シンガポール大学アジア研究所所長）

濱下武志（京都大学東南アジア研究所教授）

中川 眞（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）

開催時間帯は13:00から17:00頃までを予定。時間配分の目安は各講演1時間程度、討論1時間、及び休憩。また、使用言語は英語とする。経費（講師謝金、旅費など）、通訳などについて、検討が行われた。

2) 3月19日

各プロジェクトからの報告と討論

都市文化創造のための基礎研究—多元的考察と資源化—

Basic Studies for the Creation of Urban Culture - Plural Analysis and Resource Making

報告者

大阪プロジェクト：仁木宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者）、伊藤毅（東京大学大学院工学系研究科教授）

中国プロジェクト：上海サブセンターから1名（検討中）、北京サブセンターから辛徳勇（北京大学歴史学系教授）

東南アジアプロジェクト：山野正彦（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、他1名（選考中）

アーカイブス・プロジェクト：高野光平（東京大学大学院人文社会系研究科助手）、森洋久（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者）

以上が企画委員会において審議した内容である。10月26日に開催された第5回会議において、11月からは、企画委員会を解散し、新たに実行委員会を発足させて、シンポジウムの実施を検討することを決定し、併せて実行委員会の組織表（原案）を作成した。

3 事業計画の推進状況

(1) 「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベースおよびネットワークの構築」

(担当者：石田佐恵子)

石田佐恵子は、2005年8月24日から9月6日までの約2週間、インドネシア（ジョクジャカルタ）およびシンガポールに出張した。目的は、映像アーカイブ・プロジェクトに関する調査と資料収集である。ジョクジャカルタでは、2003年に実施したISIテレビ学科との共同プロジェクトの補足調査を行った。具体的には、映像アーカイブ作成への協力依頼とビデオ制作者へのインタビュー、新作作品の収集である。イ・マデ・バンデム先生（ISI学長）、スプラプト・スジョノ先生（ISI記録メディア学部長）ほかと面談し、今後のアーカイブ作成についての打ち合わせを行った。

また、シンガポールでは、義安工科大学メディア&フィルム学科を訪問、ピージェイ・チャドラン教授から、シンガポールの映像制作事情について教示を受けた。また、市内の施設を訪問し、アジア・フィルム・アーカイブなどの関係資料を収集した。

他の研究資金による海外出張（8/12-17 韓国（韓日文化交流基金）、9/17-25 イギリス（科学研究費補助金））においても、同プロジェクトと連動する資料収集を行った。

また、木村幹（神戸大学国際協力研究科教授）、山中千恵（大阪大学人間科学研究科助手）らとの共同研究「他者表象研究会」（研究資金：汎太平洋フォーラム）においては、これまで7回の研究会を主催しているが、うち2回をCOE研究会として共同開催した。

こうした他の研究資金による成果と連動させながら、現在、映像アーカイブ「UCRC エスノグラフィック映像コレクション」を制作中である。

(2) データベース関係

「上田貞治郎写真コレクション」（担当：水内俊雄）を作成し、COEのHPに掲載した。小川直人（大阪市立大学大学院文学研究科研究生）の解説にもとづき、簡単に内容を紹介しておきたい。

上田貞治郎（～1944）は戦前期日本を代表する大阪の写真材料商、上田写真機店の創業者である。大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センターは、2005年、貞治郎が蒐集した「風景古写真」1000枚余を収めた上田貞

治郎アルバム10冊をデジタル・アーカイブス化した。

このコレクションを構成する主要な古写真は、貞治郎のコレクションに至る伝来経緯に基づき、以下の3つの写真群に分類できる。

① 「譲渡された古写真群一和田猶松撮影原板一」。貞治郎は、大阪新町橋東詰の営業写真師和田猶松が明治3年頃から土産用販売写真として撮影した湿版写真の原板を、昭和3年7月以前までに猶松の嗣子奈良松から譲渡された。本コレクションでは、「旧大阪および紀州より関西諸所 五集」、「関東名所 近江美の尾張駿河東京横浜京都」の両アルバムが和田猶松原板アルバムである。

② 「購入した古写真群一荒木伊兵衛古書肆一」。貞治郎は大正15年には既に古写真蒐集を開始し、京阪神の古書肆や古書即売会で幾度も古写真を購入した。特に懇意にした古書肆である大阪市西区江戸堀の老舗荒木伊兵衛を通じて、四ツ切の古写真20枚を購入したが、そのうち16枚の複製を和田猶松の嗣子奈良松に依託した。本コレクションは、この荒木経由の古写真などを収録する。

③ 「上田貞治郎撮影古写真群」。貞治郎は、明治30年から昭和初年にかけて、大阪市内の風景を撮影した。これらの写真は、貞治郎が生きるいま／この刹那を切取った「現代風景写真」で、ある意味で、和田原板などの純然たる古写真群とは異質な写真群である。

なお、本誌に掲載された小川直人「戦前期の入江泰吉と光藝社一「上田写真機店関係文書」と新発見史資料から一」は、この「上田貞治郎写真コレクション」及び小川自身が蒐集した新資料を用いて、上田写真機店で修行した経歴をもち、のちに大阪の写真作家として活躍した入江泰吉の活動を追跡し、日本写真史の空白を埋める貴重な作業を行っているのだから、参照していただきたい。

この他、GLOBALBASEサーバを立ち上げる予定である。これは、自律分散型のGISであり、各所で発信している地理情報をシームレスにつなげてインターネットで閲覧することが出来る。また、古地図や古い航空写真といったままでGISの苦手としていた地理情報も取り扱うことが出来、これらを現代の地図と重ね合わせて、都市の時代的変遷を調べることが出来る仕組みである（担当：水内俊雄、技術責任者：森洋久）。

4 ホームページ(HP)

HP日本語版はすでに更新を終えた。現在、英語版の作成を準備中であり、2006年1月末を目処にアップする予定である。

インターナショナル・スクール 「国際都市文化論Ⅰ」

谷 富夫

2005年度のインターナショナル・スクール(集中講義「国際都市文化論Ⅰ」)は、「都市文化理論の地平と焦点」を共通テーマに、2005年9月27～29日の3日間、共通教育棟816号室で開催された。出席者は連日70名前後で、教室はほぼ満席の盛況であった。各種データから推計して、3日間とも学部生・大学院生・COE(特別)研究員、それぞれ20数名ずつの出席と見られる。

プログラムは、栄原永遠男文学研究科長(COE事業推進担当者)の「基調講演」に始まり、各日、午前外国人招聘講師の講義、午後若手研究者(COE(特別)研究員・大学院生)の研究発表が行われた。独・豪・米から招いた3人の外国人講師のそれぞれの専門分野—比較政治学・社会心理学・日本近世史—に比較的近いテーマの若手研究者が、その日の午後報告するという形式で構成された3日間のプログラムは、以下の通りである。

なお、今回は新しい試みとして、午前の部はもちろん午後の部も、すべて英語(一部ドイツ語)で発表することにした。若手研究者のトレーニングがその狙いである。講義原稿と発表原稿をもとに、今年度内に欧文報告書を作成する予定である。

THE HORIZON AND FOCUS IN URBAN CULTURAL THEORY

27 AM, Sep.

- “Keynote Speech”, Prof. Dr. Towao SAKAEHARA (Dean of Graduate School of Literature and Human Sciences, Osaka City University, Japan)
- “A More Prominent Role for the Japanese Prime Minister?: Some Observations from Germany”, Prof. Dr. Manfred POHL (Asien-Afrika-Institut, Universität Hamburg,

Germany)

27 PM, Sep.

- “Orality and Literacy in Medieval France”, Nobutada ZUSHI (COE Fellow and PhD Candidate, Western History)
- “Sprachkultur und Literaturkultur: Am Beispiel der deutschsprachigen Schweiz in der Zeit der Reformation”, Norikazu TAHARA (COE Fellow and PhD Candidate, German Literature)

28 AM, Sep.

- “Migration and Cross-Cultural Issues”, Senior Lecturer, Dr. Rogelia PE-PUA (Head of School of Social Science and Policy, The University of New South Wales, Australia)

28 PM, Sep.

- “In Search for a New Form of Ethnic Relations: Korean Residents and Japanese Residents in Osaka”, Dr. Yuko NIKAIDO (COE Postdoctoral Fellow, Sociology)
- “Attitudes toward Different Cultures in Japan, Germany, and United Kingdom from the Perspective of Terror Management Theory”, Yuriko MUKAI (COE Fellow and PhD Candidate, Psychology)
- “How Wadaiko (Japanese Drum) Is Being Accepted in USA”, Mizuki KUWAHARA (PhD Candidate, School of Asian Culture and Urbanism)

29 AM, Sep.

- “Early Modern Japanese Urban Society and Competition between Religious Groups”, Assoc. Prof. Dr. Alexander M. VESEY (Stonehill University, USA)

29 PM, Sep.

- “A ‘Gakujin (Gagaku Musicians)’ Group of Shitenno-ji Temple in the Early Modern Ages”, Tatsuhiko YAMASAKI (PhD Candidate, Japanese History)
- “The Social Structure of ‘Kawatamura’ Village Communities in Early Modern Japan”, Satoko MITA (MA Student, Japanese History)

- “Image of the Last Judgement in Post-Byzantine Art”, Miaki HAYAKAWA (PhD Candidade, Western History)

最後に、外国人講師の講義に同時通訳を付けたことも、今回の新しい試みであった。神戸女学院大学が推進している「通訳トレーニング法を活用した英語教育—英語運用能力向上の新しいプログラム」(文科省現代GP)が、われわれとの協同事業として参画して下さった。

神戸女学院大学文学部でGPプログラムを牽引しておられる松縄順子教授と長尾ひろみ助教授、およびおふたりのご指導のもとで同時通訳に従事して下さった同大学院生・学生の皆さんに感謝する。

上海・サブセンターについて

水内 俊雄

上海サブセンターでは、華東師範大学現代都市研究中心の都市調査グループが、継続的に「都市研究ニュースレター」の編集/発行をし、この期間第19期から第23期までを発行した。

また現地調査では、2005年6月には、都市調査グループ全員が、上海市「安置房基地」予備調査を、8月には浦東三林地域「安置房基地」総合調査を、そして10～11月にかけて、普陀区真光新村地域総合調査を行っている。

研究報告としては、『棚户—記憶中的的生活史』を記録・編集中である。8月には上述したようにメンバー全員が、大阪・神戸を訪問し、アジア都市化会議および大阪・香港・上海共同研究のミニワークショップをおこなった。11月には、華東師範大学中国現代都市研究中心・法政学院と共同主催「東アジア：市民社会の視座」の研究会を開催した。

北京・サブセンターについて

中村 圭爾

現在は、「比較都市史研究」の一環として、中国都市研究文献目録のデータベース化の作業を継続している。

2005年12月には、中村が短期間、歴史研究所を訪問し、陳祖武所長、劉栄軍副所長、ト憲群秦漢魏晋南北朝史研究室主任、楊振紅サブセンター責任者と会談し、今後の学術交流の進め方や共同研究の具体策、研究所側のHPの更新などについて、協議をした。

また、来年度刊行に向けて、共同研究の成果を集約する方針を楊研究員との間で確認した。

ジョクジャカルタ・サブセンターについて

中川 眞

2005年後半の最も大きな事業は第4回国際アカデミック・フォーラムの開催であった。

11月30日(水)の8時～15時30分、ガジャマダ大学マルチメディア室で、発表者7名(インドネシア4名、日本2名、タイ1名)、討論参加者約70名を迎えて行われた。テーマは「Cultural Resource Management」で、世界文化遺産をもつジョクジャカルタ市、大阪市の文化政策、文化ストック等に関する喫緊の課題として選ばれた。また、世界遺産のみならず、文化資源を広くパフォーミング・アーツや生活文化にまで広げて議論することによって、多様で新しい知見が数多く語られた。各々の発表タイトルは以下の通りである。

ガジャマダ大学

Prof. Dr. Timbul Haryono (文化科学学部教授) : “Equality and balance of interests in managing cultural resources”

Dr. Anna Marie Wattie (文化科学学部講師) : “Urban family and cultural resources management”

インドネシア芸術大学

Mr. Anusapati (美術学部講師) : “Murals in Yogyakarta’s public spaces”

Ms. Hj. Yudiaryani(上演芸術学部講師) : “Rendra and Theatre Mini Kata as counter

culture in Yogyakarta from 1960's”
大阪市立大学

Prof. Dr. Shin Nakagawa (大学院文学研究科
教授, COE事業推進担当者): “Able Art as
a new cultural resource”

Masami Okabe (大学院文学研究科大学院学
生): “Javanese dance as cultural resource”
タマサート大学

Assit. Prof. Dr. Sayan Praicharnjit (社会行
政学部助教授): “Community Archaeology
Process: Participatory action research
and development program towards an
enhancement of community ability on
cultural resource management, Thailand
pilot practices”

ホームページの内容のアップなど、事務的な
業務は順調に推移した。ホームページアドレス
は以下のとおり。

<http://ucrc-yogyo.or.id/>

この他、ジョクジャカルタ・サウンドスケ
ープ研究は、インドネシア芸術大学民族音楽学
科教員ブディ・ラハルジョ氏とともに進められて
いる。そのデータの一部は現在、音のデジタル・
アーカイブ化の作業を進めており、2006年3月
に公開の予定である。

バンコク・サブセンターについて

中川 眞

チュラロンコン大学芸術学部のブッサコー
ン・サムロントン助教授を中心とする共同研究
「コークレ (Kho Kred) 地域における文化資源
調査」を継続的に行っている。

また、2005年8月には清水苗穂子(COE研究
員)、田渕夏季(COE研究員)が、それぞれ「タ
イにおける観光NGO」「チェンマイのサウンド
スケープ」の研究を、ほぼ1ヶ月間にわたって
バンコク、チェンマイにて行った。

山野正彦(大阪市立大学大学院文学研究科教
授, COE事業推進担当者)は、カンタマラ助
教授(チュラロンコン大学芸術学部)とともに
寺院壁画の調査をバンコク郊外において2005
年8月28日～9月7日に行った。この調査によ
って得られたデータは、現在デジタル・アーカイ
ブ化の準備中である。

田渕夏季(COE研究員)は、本格的な研究を継
続させるため、2005年10月よりチェンマイ大
学美術学部の研究生となって留学、チェンマイ
におけるサウンドスケープ調査を行っている。
1年間の予定である。

サブセンターの事務職員であるマリワン・オ
ンソイ氏が2005年9月14日付で退職、ナラッタ
ポーン氏が9月15日から新事務員として働いて
いる。

ハンブルク・サブセンターについて

栄原 永遠男

2005年3月末で退職されたローラント・シュ
ナイダー氏の送別会が5月26日に開催された。
栄原あてに招待状が届いたが、出席できなかった。

8月に広瀬千一教授がハンブルク大学を訪問
した際、サブセンター(106号室)の利用を認
めるとともにその点検を行っていただいた。

9月27日～29日に、COEと文学研究科の
共催で行われたインターナショナルスクール
の第1日目の講師として、マンフレート・
ポール教授(東洋学部アジア・アフリカ研究
所)を招聘した。同教授には、午前中に“A
More Prominent Role for the Japanese Prime
Minister? Some Observations from Germany”
というテーマで英語で講演いただいたあと、午
後は、COE研究員の英語による研究発表に対
してコメントをいただいた。

ロンドン・サブセンターについて

栄原 永遠男

SOAS349号室を東京外国語大学COEプログ
ラムと共同利用する体制を維持した。

『都市文化研究』編集委員会

仁木 宏

1) 2005年度委員

- 高梨 友宏 (COE事業推進協力者, 哲学)
仁木 宏 (COE事業推進担当者, 歴史学, 委員長)
川邊 光一 (COE事業推進協力者, 心理学)
岩本 真理 (COE事業推進協力者, 中国語中国文学)
大岩本幸次 (COE事業推進協力者, 中国語中国文学)
イアン・リチャーズ (COE事業推進協力者, 英語英米文学)
神竹 道士 (COE事業推進協力者, ドイツ言語文化学)
多和田裕司 (COE事業推進協力者, アジア都市文化学)

この他, 編集委員会(会議)には, 荒平みほ(編集補佐, COE事務局)が出席している。

2) 2005年度後半の主な活動(『都市文化研究』第6号掲載のニュース以降の活動)

[編集主任]

2005年度

第6号担当=高梨友宏

第7号担当=川邊光一

[査読体制]

投稿された論文については, 原則として, 第1次・第2次の二度の査読を課すことにしている。第1次査読では, 1本の論文につき, 編集委員1名, 非編集委員(文学研究科教員)1名の2名で査読する。第2次査読は, 編集委員各1名が担当する。

査読にあたっては, 査読表を活用し, 公正かつ正確な査読を期した。査読表はホームページ上に公開している。

査読を受けた論文を他の論文類と区別するため, 日本語キーワードの後に, 論文受理・採録決定の日付を付けている。

[第6号について]

以下のような反省点があげられた。

- ・表紙の校正にあたって, デザイナーとの意思疎通をもう少し緊密におこなうべきであった。
- ・海外在住執筆者との連絡に不具合が生じた。

[第7号について]

- ・投稿論文数と質の維持・向上のための方策を検討した。
- ・表紙デザイナーに要改善点を申し入れた。

[第8号以降にむけて]

- ・英文・中国語論文投稿に備えて執筆要項を改訂し, ホームページ上に公開した。
- ・海外在住執筆者が多数にのぼる場合などは, 編集主任とは別に, 担当の編集委員を置くことで対処することとした。

3) 活動記録(2005年12月20日現在)

(『都市文化研究』第6号掲載のニュース以降の活動)

2005年

8月10日 『都市文化研究』第6号の集中校正

9月30日 第6号納品

10月5日 『都市文化研究』第7号投稿論文の第1次締切(論文5本の投稿あり)

10月7日 第25回編集委員会

(1) 第6号の反省

(2) 第7号の内容確認

(3) 第7号への投稿論文の第1次査読者の決定

(4) 3言語併用体制について

(5) 第7号の刊行スケジュールの確認

11月1日 特別寄稿・在外研究レポートなどの締切(特別寄稿1本, シンポジウム論文3本の投稿あり)

11月4日 第26回編集委員会

(1) 投稿論文の第1次査読の結果決定→投稿者に書き直し指示。

(2) 第8号のスケジュール等確認。編集主任は多和田委員か神竹委員。

11月25日 投稿論文の第2次締切(論文4本の投稿あり)

11月29日 印刷業者・表紙デザイナーと編集作業打合せ

12月1日 ニュース部門原稿の締切

12月2日 第27回編集委員会

(1) 投稿論文の第2次査読の結果決定

(2) 編集作業打合せの報告

(3) 集中校正(1/12) 動員体制の確認

(4) 三言語体制のための執筆要項改定案の検討

12月20日 入稿

執筆者アンケートの実施